

令和3年度の取組み状況

(1) 小・中学校・特別支援学校の児童生徒を対象とする取組み

◆ “いじめ・非行をなくそう” 標語の募集及び全県広報

- ・県内の全小中学校及び特別支援学校に対し、いじめの防止・根絶に向けた標語を募集したところ、合計55,093点の応募があり、各地区ごとに審査が行われ、下記の4点が優秀作品に輝きました。

【令和3年度“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動優秀標語】

村山地区：いじめ菌 コロナといっしょに ふっ飛ばそう！

(山形県立村山特別支援学校中学部・3年 小座間 翔英さん作)

最上地区：つながろう 今こそ心は ノーディスタンス

(舟形町立舟形小学校・5年 沼澤 直太さん作)

置賜地区：悩んだら ためこまないで まず相談

(飯豊町立飯豊中学校・3年 舘石 柚葵さん作)

庄内地区：認め合おう 違いは「個性」 十人十色

(鶴岡市立櫛引中学校・3年 渡部 ひよりさん作)

- ・優秀作品については、青少年の健全育成に携わる関係者が一堂に集う山形県青少年健全育成県民大会（オンライン開催：令和3年10月31日）にて発表され、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動ポスター等各種広報媒体に掲載されました。

(2) 高等学校の生徒を対象とする取組み

◆ 高校生徒会による“いじめ・非行をなくそう”スローガンの作成、いじめ防止ポスターデザインの募集

- ・県内の各高等学校において、生徒会等が主体となって“いじめ・非行をなくそう”スローガンを策定し、学校ごとにスローガンの実現に向けた様々な取組みが行われました。
- ・県内の高等学校に対し、いじめ防止のポスターデザインを募集したところ、計8点の応募があり、審査により優秀作品が選ばれました。

◆ 「児童・生徒と地域の大人の対話会」の実施

- ・県内4地区において、子どもと地域の大人が互いに向き合い、いじめ防止のために何ができるのかを考える対話会をオンライン等により感染防止対策に留意して実施。大人と子どもが真摯に向き合おことで、お互いに学んだことも多く、地域と子どものつながりが大事であると再認識できました。

(3) 県内の各地域における取組み

- ・県内各地域の推進機関・団体は、それぞれの計画に基づき、街頭及び学校での啓発活動やいじめ・非行防止のための講習会・懇談会等を開催するなど、積極的な活動を展開しました。

◆いじめ・非行防止セミナーの開催（山形県青少年健全育成県民大会の中で開催）

青少年の健全育成に携わる関係者が一同に集う山形県青少年健全育成県民大会の場で、地域・学校・家庭の3者の連携をテーマに、子どものネット問題に関する有識者竹内義博氏による「スマホ世代の子どもたちのために大人たちができること～With コロナの時代に向けて～」と題した講演と、酒田市の事例発表を実施しました。講演では、子どもたちのスマホ利用の現状や、SNSでのいじめなどについて、アンケート調査の結果を用いながら解説いただき、ネット依存にある子どもたち自身も疲弊していることから、地域での声かけや見守り活動は重要な役割を担っていることを再認識させられる機会となりました。事例発表では、酒田市青少年を伸ばそう市民会議が日ごろの活動について発表し、その内容を共有することで、各地域における活動の在り方について理解と関心が深まりました。

◆地域の大人のためのインターネット利用に関する研修会の開催

令和3年11月24日にオンライン形式で実施し、山形大学学術研究院准教授の加納寛子氏を講師に迎え、「スマホとSNSに関する子どもたちの諸問題への対処について～ネットいじめを防ぐためにできること～」と題し、いじめはどこでも起こり得るものであり、「早期発見（いじめ発見を褒める）」「早期解決（被害者ファースト）」「未然防止教育（いじめ問題を考えるきっかけ作り）」の3つが重要であると説きました。

（4）各種媒体により啓発活動



鶴岡南高等学校通信制の課程 3年 齋藤 涼羽さんの作品がポスターデザインに選ばれました。

- ・ 県内民間企業と連携した啓発活動
- ・ モンテディオ山形と連携し、山形県総合運動公園にて11月3日の試合会場等で啓発活動を実施しました。